

# 藤沢宿を知る

## 藤沢宿って？

「徳川家康の政策で整備された東海道の宿場の一つ。庶民による寺社参詣の旅が流行すると、江の島道や大山道への分岐がある宿場として、多くの人々が行き交うところでありました」



「電子博物館 みゆネットふじさわ」提供

江戸時代は東海道の宿場町、明治以降は流通の中心地として栄えた「藤沢宿」を、藤沢市郷土歴史課学芸員の芦葉さんの解説付きで紹介。

**B 旧桔梗屋**  
●藤沢駅 MAP P25-E-1  
☒藤沢市藤沢1-1-9  
☒見学自由(内部は非公開)  
☒なし ☒無料  
☒④⑤⑥藤沢駅より徒歩10分

**A 遊行寺(清浄光寺)**  
●藤沢駅 MAP P25-E-1  
☒藤沢市西富1-8-1  
☒0466-22-2063 ☒境内自由  
☒なし ☒無料  
☒④⑤⑥藤沢駅より徒歩14分

**C 伝義経首洗い井戸**  
●藤沢本町駅 MAP P25-D-1  
☒藤沢市藤沢2-1-10  
☒見学自由  
☒なし ☒無料  
☒④藤沢本町駅より徒歩5分

**D 白旗神社**  
●藤沢本町駅 MAP P25-D-1  
☒藤沢市藤沢2-4-7  
☒0466-22-9210  
☒境内自由 ☒なし ☒無料  
☒④藤沢本町駅より徒歩5分

**E 蒔田本陣跡**  
●藤沢本町駅 MAP P25-E-1  
☒藤沢市藤沢1-3-3  
☒見学自由  
☒なし ☒無料  
☒④藤沢本町駅より徒歩9分



「一遍上人を宗祖とする時宗の総本山。境内の歴史的建造物のうち、中雀門は市指定重要文化財。本堂を含む10件は国登録有形文化財(建造物)。境内寺院の長生院は、江戸時代に人気のあった「小栗判官」ゆかりの寺院です」

**A 遊行寺(清浄光寺)**

**B 旧桔梗屋**

**C 伝義経首洗い井戸**

**D 白旗神社**

**E 蒔田本陣跡**

**F 藤沢御殿跡**

**G 江の島弁財天道標**

**H 庚申堂**

**I ふじさわ宿交流館**

**J 遊行寺橋**

**K 江の島弁財天道標**



「奥州で自害した源義経の首は鎌倉での首実検の後、浜に捨てられたと言われていますが、川を遡り漂着した首を地元民が洗い清めたという伝説が残っている井戸です」



「江戸時代に茶や紙の間屋を営んでいた旧家の建造物です。国登録有形文化財(建造物)。黒漆喰塗の外壁と土蔵造りが特徴です」



「寒川比古命と源義経を主祭神として祀る神社。6月には『義経公鎮霊祭』、10月には市指定重要文化財の『湯立神楽』を実施」



「本陣とは大名や幕府の役人が泊まる格式高い宿のこと。藤沢宿では1745(延享2)年から蒔田家が務めました」



「御殿とは將軍専用宿泊施設のこと。家康は所領となった関東各地に設置し、藤沢御殿は家康、秀忠、家光の3代にわたり利用されました」



「江戸時代、遊行寺橋のたもとには江の島一の鳥居が建てられ、江の島道の始点となっていました」



「目の不自由な人が江の島に参詣できるように、杉山検校によって建立された道標。現存する11基と同型の1基は市指定重要文化財です」



「室内には市指定重要文化財の青面金剛像と両脇侍が安置されています。開帳は60年に一度、次は2040年に行われる予定です」

私が解説!



先人の残した記録から歴史に思いをはせてみると、藤沢宿に対する思いもひと味違ったものになりますよ。

藤沢市郷土歴史課 芦葉抄苗さん



**ふじさわ宿交流館**  
●藤沢駅 MAP P25-E-1  
「東海道藤沢宿の歴史や文化を紹介する施設。館内には資料展示や休憩所などがあり、藤沢宿散策はボランティアのガイドが希望に沿ったコースも提案してくれます(要予約)」

☒藤沢市西富1-3-3 ☒0466-55-2255 ☒9:00~18:00※10~3月は~17:00  
☒月(☒の場合翌日) ☒入館無料 ☒④⑤⑥藤沢駅より徒歩14分

**H 庚申堂**  
●藤沢駅 MAP P24-C-3  
☒藤沢市藤沢92 ☒非公開  
☒見学自由(内部は非公開)  
☒なし ☒無料  
☒④⑤⑥藤沢駅より徒歩5分

**G 江の島弁財天道標**  
●藤沢駅 MAP ①P25-E-1、②P24-C-3  
☒藤沢市藤沢1-701-4  
☒藤沢市藤沢39-1  
☒見学自由 ☒なし ☒無料  
☒④⑤⑥藤沢駅より徒歩5分

**F 藤沢御殿跡**  
●藤沢本町駅 MAP P25-E-1  
☒藤沢市藤沢1-9-17  
☒見学自由  
☒なし ☒無料  
☒④藤沢本町駅より徒歩12分

\*藤沢宿の各スポットの正確な場所はP24-25のMAPでご確認ください。